

平成 26 年度 明石市地域自立支援協議会

しごと部会 リポート Vol.10 平成 26 年 12 月 11 日発行

発行元：明石市地域自立支援協議会 しごと部会事務局
(基幹相談支援センター) TEL：078-918-5252



【意見投稿用アドレス】 akashi_jiritsushien@yahoo.co.jp

会員専用のメールアドレスをご用意していますので、皆様からの情報提供やご意見をお待ちしています

前回に引き続き、山崎会長、賀部副会長のお考えをリポートしていきます。

【3】 障害者就労に関するしごと部会の役割とは、何でしょうか？

(山崎会長) 大きく 2 つあると思います。一つは、市民や企業への啓発活動として障がいのある方の就労の現状を知ってもらうこと、2 つ目は、部会の動きや就労支援に関する状況を部会に関わっている支援者だけでなく、部会に参加していない方への情報共有の方法や、現場の方が問題意識を持って部会に参加できる仕組み作りの検討を行うことだと思います。

(賀部副会長) 僕もそう思います。市民も含め、多くの方にしごと部会の活動を知ってもらうための仕組みを作りは大事ですね。協議会に参加しているメンバーが負担を感じずに自分の職場に地域自立支援協議会、しごと部会等の活動を周知する事が出来るようにしていきたいですね。明石市内の多くの事業所が情報共有や協働していく事で自立支援協議会や部会が育つと思います。そして、就労されている障害者の方達にとっても部会が良い発信の場になり、拠り所になるような場作りが出来ればと思います。

【4】 障害者就労の課題ってどういうことがあるのでしょうか？

(山崎会長) 昔は、手帳をもって、訓練をして就職するという流れがありましたが、最近は、難病の方や高次脳機能障害のある方々に対しても幅広く就労支援が行われている現状があります。また、手帳所持者でなくても「生きづらさ」を抱えている人達の就労支援のケースも見られます。そういう意味では、障害者就労支援の対象者はどんどん複雑になっている気がします。そうすると、受け入れ先である企業に理解してもらうことも簡単にはいかなくなってきました。私も含めて、支援者が障害者就労の現状や「働きづらさ」についてもっと学ぶ必要があると思いますし、また、企業に繋げる上では、支援者が福祉に捉われず一般社会の「一般的な眼」を研ぎ澄ますことも必要になってくると思います。簡単な例でいうと、人は『大人になったら働くことは当たり前』のことというような…。

(賀部副会長) そうですね、「普通」って大事ですよ。僕の職場(博由園)では、現在、4 名の障害の方が働いています。仕事の内容は、分かりやすく伝えるとか、いっぺんに言わないとか一定の配慮はされていますが、基本、一労働者として関わっています。同じ職員として、普通に博由園の利用者さんを支えています。特別扱いでない方が、障害者の人にも居心地がいいのかもしれないですよ。そういう職場を作りたいです。企業との連携でいうと、「企業側にとっても雇用する上でのメリットは何か?」「考えられるリスクは何か?」「企業が求めている人材や理念は?」等をしっかり把握することが必要だと思います。啓発、PRはもちろんですが、企業側の立場に立って何が出来るかを考える努力をすることで企業との繋がりが徐々にできてくると考えています。こういうことは、一事業所で取り組んでいくのは難しいので、しごと部会等で情報共有したり、検討したりできる課題だと思います。

今後ですが、「障害者就労支援」ではなく「一般の就労支援」として社会全体が捉える事が出来たら「障害」という枠にとらわれない就労支援が実現していくのでは…と期待もしたいです。(終)